



2F男女洗面コーナー。白を基調とした明るく清潔なトイレ空間に、青や赤の色を配色しダイナミックな色彩のトイレに。少年と少女のシルエットを配置した大型サインは、わかりやすくインパクトがある。

いび 岐阜県揖斐郡大野町 大野町立西小学校

過去の学校トイレのイメージを一掃
快適で清潔感のあるトイレへ

学校へ来る楽しさを
子どもたちに提供したい

回転式スライドドアで
省スペース化

岐阜県揖斐郡大野町は、子どもたちが良好な環境で落ち着いて学習に集中できるように、町内の学校環境の改善を重要課題としてとらえ、衛生環境の改善から順次遂行しています。その一環として、老朽化した大野町立西小学校のトイレは、長寿命化を視野に入れて改修されました。

大野町は学校のトイレづくりについて次のように考えました。

「子どもたちに学校へ来ることへの楽しみを提供できる施設づくりの一つとして、今までの学校トイレに対する認識からの脱却を図り、快適で清潔感のあるトイレの整備を念頭に置きました」(大野町学校教育課係長 間瀬修さん)

学校側は「明るく清潔で掃除をしやすいトイレにしてほしい。男子トイレも洋式化し、複数のブースを設置してほしい」など具体的な要望を出しました。

こうして、主に夏休みを利用して工事が実施されました。

洗面コーナーも含めて全面改修されたトイレは明るく清潔で、使いやすさを実現しています。

設計を手がけたデザインボックスの野村智美さんは、デザインについて次のように言います。

「白を基調とした明るく清潔なトイレ空間に青や赤の活力ある色を配色することで、ダイナミックな色彩構成としました」

入り口のサインは色分けされた大きなシルエットになっており、男女の違いがひと目でわかります。

感染症対策の観点から便器はすべて洋式化しました。床は衛生面やメンテナンス性にも配慮し、湿式床を、水をまかずに清掃可能な乾式床に改修しました。

また、災害時避難所となることを考慮して、1階には「みんなのトイレ」と名づけた多機能トイレも設置しました。

間瀬さんは言います。

「災害発生時の避難所におけるトイレの問題は全国各地で起こり得る課題。今回の改修で校舎内の



みんなのトイレのサイン。大野町のキャラクターが描かれている。高齢者や妊婦、車いす利用者など、使用する人を限定しないために呼び方を「みんなのトイレ」に。



1F女子トイレ。最上階は校舎屋上受水槽からの水圧が低いため、一律タンク式を採用。



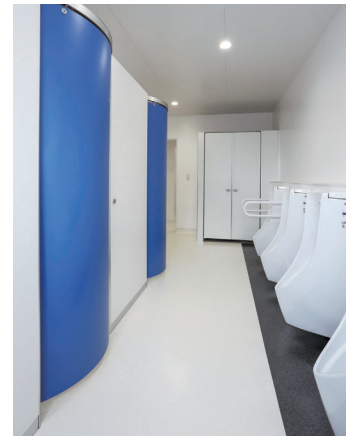
メンテナンス性を考慮して、便器はすべて掃除口付きタイプとした。



1Fみんなのトイレ。災害時避難所となることを考慮して1Fに配置した。どのトイレも壁材・床材の防汚性に配慮。



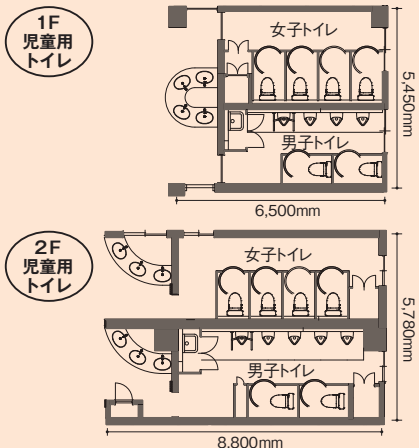
2F男子トイレ。壁掛け式自動洗浄小便器を採用。自己発電式で停電時にも使えるように配慮した。



2F男子トイレ。トイレスペースが狭く外開きにするしかなかったところ、回転式スライドドアを採用したことで開閉時のトラブルがなく、通路幅を十分確保できた。

大野町立西小学校 DATA

名称：大野町立西小学校
所在地：岐阜県揖斐郡大野町松山15-1
児童数：166名(2020年4月)
施主：大野町
設計・監理：デザインボックス
施工：山本産業
竣工年月：2018年9月(改修)



限られたトイレスペースで、ドアレスの入り口とトイレ洋式化を実現。



1F女子トイレ。ブースのドアはすべて回転式スライドドアとして、限られた空間での全洋式化を実現している。



1F男女共用洗面コーナー。廊下と手洗いが一体となるスペースは曲面配置でコミュニケーションがしやすい。感染症対策と節水の観点からすべて自動水栓(自己発電式)としている。

トイレはすべて洋式化を達成しました。広い洗面スペースが確保され、多機能トイレも確保できたことは、大野町としても大きなメリットです」

改修後のトイレについて、教職員からは、「きれいなのはうれしい。手洗いが自動式になり、より衛生的で安心」と喜びの声が。

「トイレがきれいになったことで児童の衛生意識が高まり、一生懸命掃除をする子が増えました」と大村統子校長(取材時)。

設計士の野村さんは、今後トイレ改修をする他の自治体に次のアドバイスをしてくれました。

「子どもたちにとって学校生活は一日の大半を占め、そのトイレ空間の記憶は大人になっても残るもの。将来楽しい記憶として残るトイレ空間の提供は、行政だからこそできる教育投資の一つではないでしょうか」

